

令和2年度事業報告

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

I. 法人の状況に関する事項

本年度は、早い時期に新型コロナウイルスの感染は収束に向かうとの見方で、公益事業活動は、研修・体験活動等事業（淳風美俗育成事業）、染色、染料及び色彩に関する研究等事業（学術研究事業）とも、所期の目的に沿った活動を予定していました。しかし感染は収束するどころか、3回の大きな感染拡大の波とそれに伴う2回の緊急事態宣言の発令により、キャンピング指月林は計5か月間の閉園を余儀なくされ、来場団体もそれぞれのガイドラインに従って活動を自粛されることとなりました。また、年3回開催している繊維染色委員会も、感染防止のため、やむなく報告書による書面での確認といたしました。

収益事業においては、事業用建物4棟、頭賃貸用土地2件は予算を若干下回りながらも通年稼動し、公益目的事業の予算規模に応じた収益を得ることができました。

このような結果となり非常に残念ではありますが、関係各位のご支援ご協力については深く感謝申し上げます。まことにありがとうございました。

役員に関しましては、年度を通じて理事5名、監事2名の体制で推移致しました。

II. 事業の状況

1. 淳風美俗育成事業（公益目的事業1）

研修・体験希望者の目的や年齢構成を常に意識しながら、六つのプログラム（キャンピング、瞑想、作務、茶道、草木染、スポーツ）をもとに研修・体験活動を実施しております。

しかしながら、活動実績は、来場団体14団体、来場者総数498人、活動日数28日となり、例年の6割以上の減少となりました（それぞれの前年度実績は、35団体、1,548人、88日）

研修来場者については、緊急事態宣言の発令に伴う閉園により18団体480人がキャンセルとなり、来場団体の活動ガイドラインによる自主判断で7団体139人が活動を自粛されることとなりました。来場される団体に対しては、感染防止対策について双方で十分確認の上で徹底いたしました。

次年度の感染収束を予測することは極めて困難ですが、基本姿勢は従来と変わるこ

とのなく活動内容の充実に努め、事業活動の一層の安定化を図ります。

施設・設備については充実と安全性向上を図りますが、老朽化が著しく早急に修繕を要する案件の対策として、特定費用準備資金の積立てを開始しました。

個別プログラムの状況は、以下のとおりです。

(1) キャンピング研修

14 団体（延 18 団体）、332 人の参加、18 日の活動実績となりました。（前年度は、34 団体、延 42 団体、1,123 人、69 日）

マスク着用、手指の消毒、三密防止、ソーシャルディスタンスの確保等を徹底しながら、野外炊飯時の安全確保、作業分担、効率の良い活動に主眼をおいて指導しました。テント宿泊は三密防止の観点から見合わせました。

(2) 瞑想研修

15 団体（延 33 団体）、491 人の参加、33 日の活動実績となりました。この研修は、延べ団体数の 98%が参加されています。（前年度は 37 団体、延 68 団体、1,517 人、69 回）

基本的に、室内で実施しますので、換気、マスク着用、三密防止、ソーシャルディスタンス等に注意しています。活動を始める前に実施し、多忙な生活の中で、「落ち着く場所や自分を見つめる場所がない」（研修後の感想文による）などの日常にあって、複数回来場団体が、自宅でも実施してみたいと自主的に望む研修となっています。例えば 5～10 分の短時間であっても静かに落ち着ける環境の整備にも力を入れています。

(3) 茶道研修

一般に敷居が高いと思われる茶道のきっかけとして、より親しみやすい茶道体験を目指しました。しかしながら、茶道指導団体等のガイドラインを参考にした結果、茶道の特性上、間接的な接触も避けづらく、感染防止の徹底が不可と判断し、実施はすべて見送りました。（前年度は 9 団体、延 9 団体、202 人、9 回）

(4) 作務研修

15 団体（延 28 団体）、489 人の参加、28 回の実施となりました。（前年度は 34 団体、延 94 団体、1,355 人、65 回）

子供世代に一番積極性が見られる研修で、“来たときよりも美しく”“次の人のために美しく”の考えを浸透させるよう努めています。また、草引き、落ち葉集めなどの季節に応じて楽しく取り組める内容も盛り込んでいます。屋外の活動ですがマスク着用、ソーシャルディスタンス等に注意しています。

(5) 草木染研修

3 団体（延 5 団体）、78 人の参加、3 回の実施となりました。

(前年度は 16 団体、延 19 団体、564 人、21 回)

染料植物園で採取した染材での染め体験を基本に実施しています。指導するスキルを上げるため各種文献を参考にして職員研修を毎月実施し、草木染の「幅」と「奥行き」に「バリエーション」も加えて、充実できるよう努めています。また、季節を感じてもらえる内容も盛り込むようにしています。実施時には、グループ分けを少人数化し、マスク着用、三密防止、ソーシャルディスタンス等に気を付けています。

(6) スポーツ研修

7 団体 (延 17 団体)、320 人の参加、17 回の実績となりました。(前年度は 16 団体、延 35 団体、844 人、36 回)

参加者は小学生が中心です。継続的な活動となることに主眼を置きながら、安全性を第一として実施しました。日頃、広い場所で運動する機会の少ない団体が多いため、運動能力の向上に役立つ設備として、かねてより要望のあった雲梯を新たに設置しました。コロナ禍で行動が制限される中で、感染対策を取ればグラウンドで体を動かせるスポーツ研修には、来年度の新しい取り組みの要望もありました。

2. 学術研究事業 (公益目的事業 2)

繊維染色研究は、例年どおり、予め設定した年度テーマをもとに取り組んでいます。しかしながら、年 3 回実施する繊維染色委員会は、一堂に会することは避けて、各々の学術研究員が書面での確認することといたしました。

附属染料植物園で植栽している染料植物は、草木染の科学的研究、染料の保存方法の研究、草木染研修、染料植物の学習に活用しております。

(1) 繊維染色研究

本年度も研究活動を論文としてまとめ、論文集「葆光」第 32 号に掲載しました。

掲載テーマ

- ① セルロース系繊維のログウッド染色におよぼす繊維内部環境の影響
- ② 雑誌「美しいキモノ」から読み取る現代の着物の色感覚
- ③ ハイノキの葉を媒染に用いたコチニール染めの研究

(2) 繊維染色委員会

例年のとおり 3 回の開催を予定していましたが、遠方から参加もあり、新型コロナウイルスの感染防止のため、開催の予定時期に提出された中間報告を各々の学術研究員が確認し合うことといたしました。

第 1 回 令和 2 年 8 月上旬

第2回 令和2年12月上旬

第3回 令和3年 3月上旬

(3) 附属染料植物園

付属染料植物園は、樹木系エリアと畑(低木と草花)系エリアに分けられますが、共に植栽類の増加を求めるのではなく、時宜を得た植栽内容となるよう努めています。また、草木染研修や学術研究用などで必要な染材を提供するために、適切な時期に、幹、枝、葉、花卉などを採取し、乾燥工程を経て染材として保存しています。また、条件が整えば、来場者が自ら染料植物園でその季節に適した生の染材を採取し、その染材で草木染研修を実施することもあります。

- ① 樹木系エリアでは、標準管理スケジュールと現状を照らしながら、適宜、剪定、補植等の必要な手入れを実施しています。
- ② 畑エリアでは、低木系染料植物の植栽とともに、年間の栽培計画に基づき草花野菜系染料植物を栽培し、自家製の染材として提供できる体制を整えています。また、新たに土壌改良を施した畑エリアにも、新たに染料植物の植栽を予定しています。
- ③ 染料植物説明板(全218枚)を維持管理し、研修活動時の自然への興味向上や草木染学習・染料植物園見学に活用しております。来場時のオリエンテーションやクイズなどに活用できるよう、記載内容の見直しや更新も行っています。

3. 収益事業

収益事業の不動産賃貸管理事業においては、新型コロナウイルス対策による経済活動の制約等のため、収益に若干の影響が出ました。不動産賃貸事業は、ほぼ計画通りの収益を得て、事業目的を達成することができております。

(1) 不動産賃貸管理事業

期首からテナントの変更はなく、計画比96%の実績を得ることができました。

| | 期 首 | | 期 末 | |
|-------|-----|-------|-----|-------|
| 事業用建物 | 4棟 | 10相手先 | 4棟 | 10相手先 |

(2) 不動産賃貸事業

2件の土地が年度を通じて稼働し、事業計画どおりの結果となりました。

以 上